

福井支部ニュース

2023 年度 第 9 号

日本科学者会議福井支部

連絡先：山本雅彦、masahiko@mbp.nifty.com

郵便振込口座番号 00710-9-17967 日本科学者会議福井支部

支部ホームページ <https://jsafukui.net/>科学者会議本部 <http://www.jsa.gr.jp/>

今号の内容

- ◆活動報告 東京農民運動連合会（東京農民連）に入会して（加藤武市）
- ★著書紹介「蝶の不思議 東京都内の蝶」 Kindle 版 加藤武市著
- ◆報告 千葉県松戸市の「ともしび」に行ってきました！（森 透）
- ◆書評投稿のお願い「東京電力の変節—最高裁・司法工リートとの癒着と原発被災者攻撃」 後藤秀典著・旬報社（編集子）

〔活動報告〕東京農民運動連合会（東京農民連）に入会して

私は新聞「農民」の読者でしたが、東京に 2022 年 8 月に福井市から東京都杉並区に転居して、農民連に入会、今は農民連東京支部の役員として活動しています。

活動として、東京農民連は東京都との交渉を、2023 年 11 月 15 日に行いました。武山会長、武藤事務局長、私も含めて 5 名が参加し、都農林水産部農業振興課渋谷課長と都市農業をめぐる課題について、要望し、懇談しました。

当面の農業振興のために①生産緑地を有効に活用して農業を発展させるために、後継者担い手の確保を支援すること②学校給食に地場産野菜の提供を強めること。都下では、地場産野菜を 30%以上提供の自治体も③体験

農園の拡大に都として積極的に取り組むこと④農業改良普及所の拡大強化を図ること⑤農家の屋敷林、作業小屋、畜舎などを農地並み課税とすること等を要請しました。

「生産緑地の活用は最重要課題です、農地を維持する上で固定資産税と相続税の問題は最重要課題で、政府に対しては引き続き要望を強めたい」と、東京から酪農の火を消さないため、22 年度規模（5 万 4 百円／1 頭）の支援を行うよう要請しました。都は「昨年度の支援は酪農家に大変喜ばれたが、同様の対策難しい」と要請には消極的でした。交渉に参加した清瀬市の町田伍兆さんより「美味しいミカンをつくりたいが改良普及所の協力をお願いしたい」と要望が出され、「早束手配する」と前向きな回答でした。

東京都における学校給食無償化について述べます。

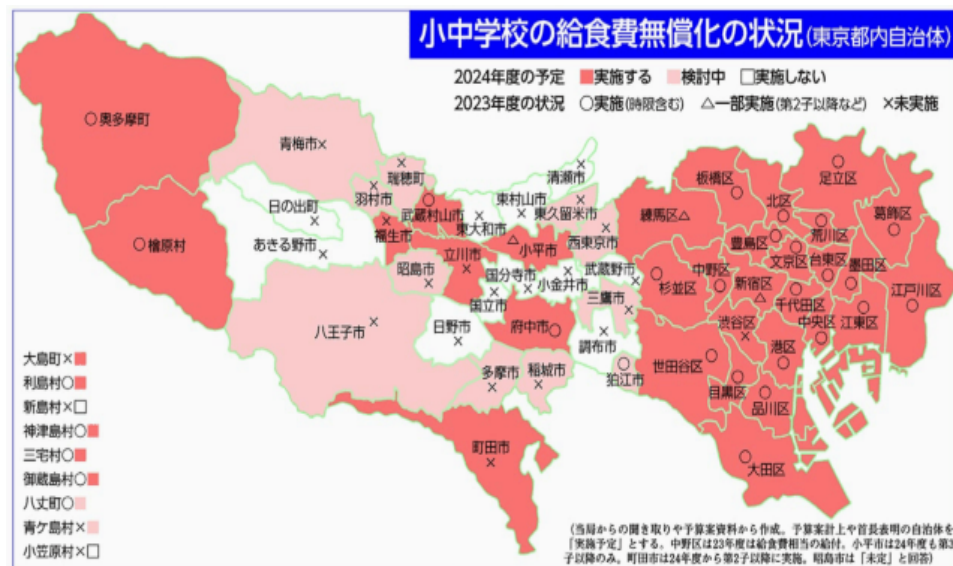
広がる学校給食無償化とその意義

学校給食無償化について、①学校給食は義務教育の中での教育の一環でもあるため、義務教育が無償であるという観点と、自宅で十分に食事ができず、学校給食が命綱という子供は 9 人に 1 人の割合である等、『給食費未納』は、0.5%という現状からです。

杉並区長選の「公約」給食費無償化です。学校給食費の無償化は、2022 年 7 月に就任した岸本聡子区長にとっても大きな意味を持つ。「公約」の一つです。

2023 年度、小中学校の給食費を無償にする自治体が 491 に広がっています（2023 年 8 月 18 日）。最近では、東京都内で、小中学校の給食費無償化が大きくなっているとなっています。23 区では、2024 年度から全区で実現へ。東京都の予算案には、補助が盛り込まれました（次ページ地図に表示）。

東京都は「給食費は本来、国の責任と財源で無償化するべきだが、国が対策をとるまでは支援する」として、区市町村が給食費の保護者負担を軽減する場合、費用の 2 分の 1 を補助する方針です。特別支援学校など、都立学校での無償化も行います。



保護者が負担する学校給食費の平均月額は5,090円です。文部科学省は、完全給食が実施されている公立小中学校の児童生徒数に年間の平均学校給食費を掛けて機械的に算出した場合、年間4,600億円となる旨述べています。

東京都の予算額特別会計と公営企業会計を加えた予算総額は16兆4000億円台(国の一般会計の総額が112兆717億円)です。東京都の予算額は、学校給食無償化しているスウェーデンに匹敵します。スウェーデンには防衛費予算ありますが、東京都にはありません。

次に、農民連としては、学校給食における地場産物・国産食材を使用する割合を維持・向上させる方策、例えば、有機作物を学校給食へ期待できます。

学校給食における地場産物の使用割合は、東京都内では30%程度です(全国平均、金額ベースでは56.5%)。公立の小中学校、幼稚園、保育園でどんな給食を出すか決定する権限は市町村長が持っています。首長が「わが町の学校の給食では地元産の有機農産物を優先的に使っていく。地元農家が生産した有機農産物は、給食で使える数量の範囲内で全量を町が買い上げる」と宣言すれば有機給食は始められます。生産した農産物は全

量を自治体が買ってくれるのだから、有機農業に興味を持つ生産者は売り先を心配することなく栽培を始められ、給食と有機農業の推進をつなぐ結び目はここにあります。

八王子市内に「とうきょう元気農場」を開設しております、また、東京都港区では2018年度産の新米より山形県産の特別栽培米を購入しています。これには山形県農民連が関わっています。

消費者が、オーガニック農産物等、特別栽培農産物等を購入している又は購入したいと思う理由は、安全だと思うからが8~9割です。農林水産省の調査では有機食品を学校給食で用いている市町村は2020年度123、21年度137、23年度140です。

保護者の負担を増やさずに給食の質を高めるという方向は、少子化対策に一役を担うことにも通じます。有機給食の導入はこうした流れの中にも位置付けられます。「オーガニックビレッジ」という事業があります。これは市町村を単位として、その中に有機農業の地域内流通を作り出そうという事業です。

世界に目を転じると、有機給食は国の政策として位置づけられています。公立学校や病院といった公的施設でのモノやサービスの受発注を「公共調達」という。フランスは有機農業を急速に伸ばしている国のひとつです。

また、ネオニコチノイド系農薬やグリホサートの発がん性や神経・腸内細菌への影響が次々に明らかになり、アメリカやEUだけでなく中国や韓国など使用禁止や規制を強化する国が増えています。この世界の流れに合流し、農民連の「アグロエコロジー宣言(案)」の実践を広め、多くの消費者・国民と共同し、「企業による食の支配」を打ち破りたいです。

私が東京に転居して、いろんな情報、講演会など中央直結に学ぶ機会があり、運動するのに好都合です。東京で農業に関する本を5冊「都市農業の現状と課題」、「学校給食無償化の意義」、「我が国の食料安全保障等」、「kindle」(電子書籍)出版する機会がありました。

(加藤武市 東京・杉並在住)

〔著書紹介〕「蝶の不思議 東京都内の蝶」 Kindle 版 加藤武市著

小学校高学年以上を対象に、蝶に関する知識、話題を分かりやすく書きました。

今から約2億年前のジュラ紀後半から白亜紀前半の地層から蛾や蝶の祖先と思われるチョウ目（鱗翅目）の化石が見つかっています。祖先は今のトビケラの仲間に近かったといわれています。

日本では250種類ほどが知られています。私が、北陸から東京に2022年に移住し、都内の公園でアカボシゴマダラがフワリフワリと飛んでいるのを見て驚きました。実に鮮やかな蝶です、北陸では見られない蝶です。国立研究開発法人国立環境研究所によると、この蝶は「“放蝶グリラ”による人為的な放蝶によると考えられている」と述べています。それにしても、都内ではよく見かける蝶です。

また、ツマグロヒョウモンもよく見かけます。もとは暖かいところに生息する蝶で、1980年代頃までは近畿地方以西でしか見られませんでした。が、東京でも見られるようになり、地球温暖化が原因と言われています。アサギマダラを、10月に「高尾山サル園」、さらに、「小石川植物園」で

見ました。都内の真ん中の「小石川植物園」で見られるなんて驚きです。

私は、東京都内で観察できるとは、東京は自然に恵まれた豊かな都市です。蝶の魅力への情熱がますます高まるばかりです。

そこで、東京で見かける蝶にこだわり、都内の山々、数多くの公園、島を訪れて観察して、多くの蝶の種類を増やしていきたい。

（Amazon のサイトから：著者の言葉）

<https://www.amazon.co.jp/蝶の不思議-東京都内の蝶-加藤-武市-ebook/dp/BOCQP2Z955>

〔報告〕千葉県松戸市の「ともしび」に行ってきました！

昨日、千葉県松戸市で開催された「歌声喫茶ともしび」の「松戸大うたごえ喫茶」に妻と知人と3名で車で参加してきました。松戸市はつくば市から高速・常磐道で1時間、全体で2時間位で松戸市民会館に到着しました。14時から16時30分まで、びっちり歌いました。知人は感動していて、参加して大変よかったと思いました。

私と「ともしび」との出会いは、今から50年位前になるでしょうか。大学時代にうたごえサークルに入り、大学紛争の中でうたごえで学生運動を闘いました。懐かしいです。その後、大学院時代は新宿の地下にあった「ともしび」に通いました。当時のスタッフの方々とも今回お会い出来、本当に今から50年前の方々と改めてお会いできる人生に感謝しています。

福井に37年間住んでいましたが、あまり歌との出会いは少なかったように思います。福井のセンター合唱団は非常に熱心で「うたごえ新聞」も購読していましたが、歌う機会はあまりありませんでした。つくばに来て、歌との接点が非常に増えました。毎月2回のシニア体操以外に、歌う会が何回かあって楽しい毎日です。そして驚いたことに、「歌声喫茶ともしび」の出前歌声がつくば市にも来たのです。地元で「ともしび」を是非呼ぼうとする熱心なグループがあるのです。昨日の松戸にも熱心なグループがあり、舞台に登って一緒に歌っていました。全国各地で「ともしび」の会がたくさんあります。「うたごえ新聞」に詳しく出ています。皆さん、高齢化していますが非常に熱心です。様々な社会運動はどこも高齢化の課題がありますが、少しでも若い方々も参加され歌うことの素晴らしさ、歌うことで仲間とつながることの大事さを感じてほしいと願っています。

昨日の松戸のうたごえは、{3. 11 私たちは忘れない 東日本大震災支援}と銘打って開催されました。全部で400名以上の方々が参加され、司会をされた中西明さんは、実は私が新宿のともしびに通っていた時のスタッフでした。つくばに来た時の司会も彼がされていて、本当に再会を喜



び記念撮影もしました（実は私と同年齢です）。一緒に行った知人（私より若干先輩）も大学時代に「ともしび」に行ったことがあるということでお誘いしました。つくばにこれからも「ともしび」が来てほしいですが、つくば市のある地域の方々が熱心なグループを作ってお呼びしていますので、今後、可能ならば私の地域の「豊里の杜」でお呼びするのが夢です。高田馬場の「ともしび」にも何度も行きたいです。「ともしび」は新宿に長くありましたが、2年位前に高田馬場に移転しました。駅から近くとてもいいお店です（ともしびのHPで検索してください）。昨年末に大学時代の歌声サークルのOB・OG会を「ともしび」で開催し、今年の1月にはつくばの方々とツアーを組んでみんなで行ってきました。この間2回行ったことになりました。私がいまでも好きな歌は「マイウエイ」です。自ら信じた道を進む。この歌のように人生を楽しみ、そしてよりよい社会を目指して進んでいきたいと考えています。

森 透 つくば在住 2024/3/9 記)

【書評投稿のお願い】「東京電力の変節—最高裁・司法エリートとの癒着と原発被災者攻撃」 後藤秀典著・旬報社

先日「「原子力村」の結びつき ジャーナリスト後藤秀典氏さんに聞く」と題した前後2回のインタビュー記事（しんぶん赤旗 3月11～12日）を読みました。この内容はネットで見た記憶があります。標題の書籍は後藤氏が昨年夏に出版した本です。三権の「司法」を担うはずのトップ組織が、戦前の体制のまま政官財へ、そして戦後はさらに砂川事件を嚆矢として米軍・米国へ、全く気にせず従属・忖度する状況に目を疑います。

この本の「書評」を支部ニュースに掲載したいと思います。編集子には荷が重いので、どなたか支部ニュース読者に投稿をお願いします。

参考に、下記のサイト*)に、この本が出版された当時の紹介文が掲載されているので、その一部を引用・紹介させていただきます。

*) 埼玉総合法律事務所 <https://saitamasogo.jp/archives/90975>
 (前略) 本書は、最高裁判所、巨大法律事務所、東京電力、政府の人脈をたどり、相互に癒着し、最高裁の公正中立「らしさ」さえ損なわれていることなど、こうした動きの背景を掘り下げ、過ちを繰り返し被災者を苦しめ続ける政治や司法のあり方に警鐘を鳴らすものです。このままでは、現場を知らず、人々の苦悩を知らない一部の「司法エリート」や政治によって、司法のあり方や国のあり方が大きく歪められていくことが強く懸念されます。正しい道を進むためにどうしたらいいのか、私たち1人ひとりに問いかけられていると思います。

(編集子)

＜編集後記＞

2023年度支部ニュース第9号をお届けします。

3/16 北陸新幹線が金沢から敦賀まで延伸営業を開始し、県の政財界もTVや新聞も連日の騒ぎです。政府はGoToトラベルを北陸応援割として大幅な補助をするので、TVワイドショーは大盛り上がりです。新型コロナの時に医療関係者を励ますとして河野太郎がはしゃいだ自衛隊のブルーインパルスも飛びました。能登地震の被災地支援は・・・・・・。

(OG)